

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007 年度～2009 年度
 課題番号：19320135
 研究課題名（和文） 排除から包摂をめざしたホームレスの中間居住施設と地域定着事業の支援体系構築
 研究課題名（英文） Construction of Homeless Aid System for Transit Housing and Community Living In Pursuing Inclusive Society and Eliminating Social Exclusion
 研究代表者
 水内 俊雄（MIZUUCHI TOSHIO）
 大阪市立大学・都市研究プラザ・教授
 研究者番号：60181880

研究成果の概要（和文）：日本のホームレス支援の最前線が、野宿現場での脱野宿支援から、脱野宿した後に中間施設や地域においていかに再野宿せずに生活継続を果たしてゆくかという段階に伸張した。本研究チームは、そうした脱ホームレス支援における現場の実態調査と、ホームレス支援のスキルの向上をはかる日本での唯一の貢献を果たしてきた。その成果は専門雑誌の発刊や NPO の創設につながり、海外への発信も含め、日本のホームレス支援に対してアカデミズムから多大な貢献をなしている。

研究成果の概要（英文）：The work of our research team has followed developments on the frontlines of aid activities for the Japanese homeless population such as the recent expansion of aid work to cover those who are in transitional housing and even those who have found standard housing arrangements. Of course, aid activity for rough sleepers themselves is still of utmost importance. This research team contributes much to these efforts through a series of comprehensive surveys of homeless aid activities. As such these surveys offer a valuable service to aid providers by providing them with reliable information that can be used to improve the provision of aid and empower the network of NPOs in this arena. One of the many tangible results that has grown out of the work of our team has been the establishment of the National Homeless Assistance Network in Japan and the successful launch of a new academic journal, "Homeless and Society". The team has also presented its findings in English language papers. Through its multinational research and advocacy, the team has made tangible contributions to emancipating Japanese and East Asian homeless by contributing valuable information on programs of assistance in policy-related discourses ranging from academia to central and local authorities responsible for local governance

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|------------|-----------|------------|
| 2007 年度 | 4,500,000 | 1,350,000 | 5,850,000 |
| 2008 年度 | 4,000,000 | 1,200,000 | 5,200,000 |
| 2009 年度 | 4,400,000 | 1,320,000 | 5,720,000 |
| 総計 | 12,900,000 | 3,870,000 | 16,770,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：NPO、ホームレス、中間施設、居住支援、社会保障、社会的包摂、社会的排除、野宿

1. 研究開始当初の背景

下記の研究の方法の項で載せている図式にも描いているように、本研究チームは一連のホームレス支援調査を2001年度から始めてきた。日本をベースにしつつ、2度の海外科で東アジア、とくに、韓国、香港、台北の諸地域におけるホームレス支援との比較調査研究を行ってきた。別途予算で日本のホームレス支援の調査もおこなっていたが、本科研は、本格的に日本のホームレス支援の第2段階にアプローチするものであった。要するにホームレス支援の現場において、脱ホームレス支援の中間施設や、普通アパートを利用した地域居住へと急速にその支援の拡がりが見えてきたのである。こうした支援の拡がりの実態を迅速に把握してゆくという緊要の研究要請が、現場から、あるいはアカデミズムから起こり、もともと学際的に行っていた広領域型の研究チームであったので、実践的に対応しなければならないという意識を強く持っていた。その結果が本研究プログラムの申請であった。

2. 研究の目的

(1) 日本のホームレス問題とは、あると信じられていた社会のセイフティネットのほころびや落とし穴が、1990年代になって露呈されたものであった。アカデミズムにおいても当該問題を、きっちりメカニズムの解明にまで踏み込んだ研究が今までなされなかったことは、当該問題に対する迅速な対応を鈍らせた感があった。こうしたアカデミズム状況を打破するカウンターアクションとして本研究は企画された。

(2) 研究の主目的は、生活の最後の砦としての中間施設の現代的意義付け、将来的な政策支援のあり方、そして歴史的な福祉・居住施策との連関を念頭にした、将来的な政策支援のあり方の構築、そして地域でのそうした施設や、利用者の生活の定着をいかに支援してゆくかの仕組み作りなどを、全国の支援組織や支援システムの調査を通じて、明らかにすることにあつた。

(3) 同時に、ここ数年、本研究集団はこの問題を照射し、社会に訴えてゆく研究をおこなってきたが、このプロジェクトはこうした今までの営為を、ひとつの研究グループにまとめて、より効果的、実践的に、政策支援的にそして理論的にも、ホ

ームレスの社会的包摂をめざした支援体系の構築をさらに大々的にはかってゆくことをめざしていた。

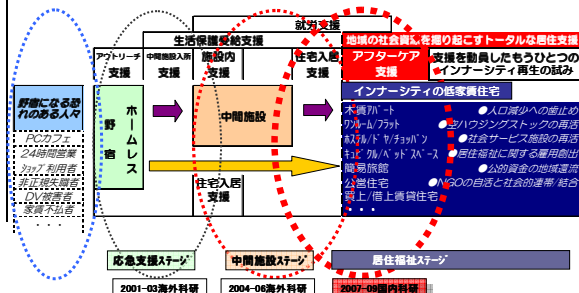
3. 研究の方法

(1) 研究の方法は右表のように調査チーム、分析チーム、ネットワーク形成チームの大きく3つにわけて構成した。もともとは②の研究会にて大規模調査を開始したが、対象は、ホームレス支援団体が主となった。全国の支援団体がその調査対象となり、このときに築き上げた関係が、後調査分析体制の関係図

| 調査分析体制 | | ①NPOホームレス支援全国ネットワーク ②大阪就労福祉居住問題調査研究会 ③おおさかよりそいネット調査チーム ④ハウジングイニシアティブ研究会 ⑤にこころの支援まちネットワーク ⑥居住サポート研究会 ⑦おおよど寝パワネット ⑧釜ヶ崎のまち再生フォーラム | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------------------------------|--|---|---|---|---|--|--|---|---|---|--|--|
| 場所 | 対象 | ① | ② | | | | | | | | | | |
| 野宿現場 | 公的セクター 支援団体、個人 | ① | ② | | | | | | | | | | |
| | 当事者 | | ② | | | | | | | | | | |
| 脱野宿現場 | ハウジング 中間施設 普通住宅 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | | | | ⑥ | | |
| | 公的セクター 支援団体、個人 | ① | ② | | | ⑤ | | | | ⑥ | ⑦ | | |
| | 当事者 | | ② | | | ⑤ | | | ⑥ | ⑦ | ⑧ | | |
| | 地域・コミュニティ | | | | ④ | ⑤ | | | ⑥ | ⑦ | ⑧ | | |
| インフラ支援 | 都市研究プラザファンド 中山、ITACO、GOD、他科研 民間助成資金 | | | | | | | | | | | | |
| 発表媒体 | 雑誌「ホームレスと社会」 もろもろの研究雑誌 | | | | | | | | | | | | |
| | 一般雑誌 英語雑誌 URPLレポートやワーキングペーパーなど | | | | | | | | | | | | |

の、①の支援団体からなるNPOの設立につながった。

(2) ホームレス支援は下図にもみられる通り、パーソナルサービスから福祉サービス、居住支援サービス、生活支援サービス実に多岐にわたっている。そのために上述の全国総合調査とは別途に、ハウジングイニシアティブ研究会、居住サポート研究会、よりそいネット大阪研究会(刑余者)を相次いでこしらえ、それぞれ、中間施設としての宿泊所や保護施設での聞き取り調査、あるいは地域の普通住宅での生活継続を支援する支援団体への聞き取りをおこなった。下図では、朱筆の点線で囲った部分にあたり、なにしろ前例がない現象であり、他ファンドも獲得することによって、集中的にかつ、状況の移り変わりが激しいことによる分析結果の「賞味期限」の短い



2001-2003年度 (海外) 「アジア先進地域におけるホームレス、不法占拠住居問題—日本、韓国、香港の比較研究—」
2004-2006年度 (海外) 「東アジア先進地域におけるホームレス、不法占拠住居問題の自立支援システム構築」
2007-2008年度 (国内) 「継続から断絶をめざしたホームレスの中間施設と地域定着支援の支援体系構築」

この現象に対する知見を、迅速に提供してきた。

(3) 分析チームについては、都市研究プラザの若手研究員の力を借りることになったし、またこうした若い力が、支援のネットワーク形成や地域での理解を得るために大きな力を発揮した。そうした意義あるタスクに対しても、社会に発信できる目立った貢献を得ることができ、新たな二つのNPOが、現場プラザを拠点にしながら活動を始めるにいった。ネットワークにもとづく人材の養成がもっともとめられているところであり、まさしく弃場プラザは社会実験道場となり、こうした若い人材が、果敢に挑戦するような仕掛けも埋め込むことができた。まさしくアクションリサーチを唱道していることになる。今後のこうした仕掛けが、ホームレス支援のみならず、大きく社会に大学が目に見える形で、実践的な貢献ができる土壌もつくった。

(4) これらの動きはネットワーク形成にも大きく係ることであるが、①の釜ヶ崎のまち再生フォーラムが、都市研究プラザ西成プラザの最強のパートナーとなり、こちらからホームレス支援の世界に若い人材を送り込むとともに、新しい社会との出会いを提供してくるようなメカニズムをこしらえた。

4. 研究成果

(1) 論文発表においては、後掲するように多くの成果があがっていると自負できる。もともと東アジアとの比較の視座を有したホームレス支援研究であり、その長年の関係形成のなかで、香港、ソウル、台北との相互の研究発表や調査も引き続き進み、相対的に英語による発信が多かったことはたいへん意義あることであった。またその一部はメジャーな英語雑誌にも受理、刊行され、ホームレス支援が、インナーシティの再生の新しいモデルになることを、世界的にも明らかにしたものであった。

(2) ホームレス支援の新段階である中間施設の支援や、地域に移行後の普通住宅での生活支援は、先行研究が極めて乏しかったので、その観点からすると、さまざまな媒体をつかって、図抜けて多くの発信をしたと評価できる。本科研においては、とくに中間施設として代表的な日本の無料低額宿泊所のさまざまな活動の実態にい

ち早くアプローチし、セイフティネットに果たす役割を、確かな知でもって伝え始めたことは、たいへん重要な貢献であったと評価できる。

(3) また本科研の調査実施期間中に、新たなホームレスとしてのネットカフェ難民、ワーキングプア、そして派遣切り問題に直面した。こうした現象に関しては、すでに本調査チームは、広義のホームレスの定義を採用すべきことを、調査体験や分析から精力的に述べてきたが、まさしくそうした努力が迅速に政策メニュー化されたことに、我々の貢献が無ではなかったことを証明したといえる。とともに、上図における、いちばん左の○部分への調査の取りかかりが、今後至急に望まれることも、確認されたと言える。

(4) こうした活発な発信は、社会のセイフティネットを考える上でのたいへん重要なものであり、そのあつい調査チームの思いが、雑誌「ホームレスと社会」の発刊につながり、それまでの雑誌のshelter-lessの休刊を見事に補ったと言える。これは学術雑誌としてのジャンルも用意したので、今後この業界におけるフラッグシップ的な学術雑誌ともなると期待される。

(5) ネットワーク形成を通じた社会への当該問題の認識の浸透とアクションの醸成という観点から、いくつかのNPOの設立にいったことはたいへん喜ばしいことであり、特にホームレス支援全国ネットワークの設立は、本科研のバックアップが大きな力となったことは紛れもない事実となっている。そして本科研チームが、このNPOのシンクタンク、ブレーン的な存在となり、多くの調査やシンポジウムの開催を牽引している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 37 件)

- ① Toshio MIZUUCHI, Hong Gyu JEON, 2010, The new mode of urban renewal for the former outcaste minority people and areas in Japan, Cities, In Press, Corrected Proof, Available online 1 May 2010, ISSN 0264-2751, DOI: 10.1016/j.cities.2010.03.008. (査読有)
- ② 水内 俊雄, 「ナイスダイアログ 社会的支援というありかた」、『なび』38号、1-4頁、2010年3月 (査読無)

- ③ 鈴木 亘、「病院の「貧困ビジネス」を防ぐ処方箋」、フォーサイト 21(2), 86-89, 2010年 (査読無)
- ④ Hong Gyu JEON, 2009, Inclusionary Area Regeneration for Socially Disadvantaged Areas: Flophouse areas in Seoul, Korea, The International Symposium on City Planning, Sep. 2009 in Taiwan: 130-139. (査読有)
- ⑤ Geerhardt KORNATOWSKI, Hong Gyu JEON, 2009, Drawing on Local Resources to Regenerate Korean Flophouse Districts: Possibilities for an Alternative Housing Safety Net", 10th International Congress of Asian Planning Schools Association, 24 - 26 November 2009, Ahmedabad, India, Abstracts and Papers, APSA 2009, 11p. (査読有)
- ⑥ Toshio MIZUUCHI, Hong-Gyu JEON, 2009, Housing Aid for the Homeless in Japan and South Korea, URP GCOE Working Paper 4, Urban Research Plaza, Osaka City University, 9p. (査読無)
- ⑦ Toshio Mizuuchi, Geerhardt Kornatowski, 2009, Reinventing Public Service Provision for the Socially-Excluded in the City: The Recent Transformation of Homelessness Support and Different Paths toward Self-dependence for the Homeless in Japan, URP GCOE Working Paper 6, May 2009, Urban Research Plaza, Osaka City University, 12p. (査読無)
- ⑧ Takuya MOTOOKA, Toshio MIZUUCHI, 2009, Eviction issues of Korean Squatter Settlements in Postwar Hiroshima: The Negotiation Process between Residents and local Governments in the 'Ota River Improvement Project' ", 10th International Congress of Asian Planning Schools Association, 24-26 November 2009, Ahmedabad, India, Abstracts and Papers, APSA 2009, 11p (査読有) .
- ⑨ 全 昌美・全 泓奎・稲田 七海・南 垣碩、「日本国東京都におけるハウジングファースト施策における評価と可能性: ホームレス地域生活移行支援事業を中心として」、韓国住居学会、ソウル大学校、126-131 頁、2009年 11月 (査読無)
- ⑩ 稲田七海、水内俊雄、「ホームレス問題と公的セクターおよび民間・NPO セクターの課題」、『社会保障研究』45(2) 、145-160 頁、2009年 9月 (査読有)
- ⑪ 水内 俊雄、「脱野宿とホームレス支援からみた都市の社会保障の再構築—多様な社会参加の方法を創出するために」、佐々木雅幸・水内俊雄編、『創造都市と社会包摂—文化多様性・市民知・まちづくり』、水曜社、283-311 頁、2009年 5月 (査読無)
- ⑫ 全 泓奎、「ソウル市における社会的な不利地域の居住問題」、日本住宅会議編、『格差社会の居住貧困: 住宅白書 2009-2010』、321-326 頁、2009年 (査読無)
- ⑬ 全 泓奎 他 訳、『高齢者の地域居住を支える』、ソウル: 図書出版ナムの家、1-280 頁、2009年 (=井上由紀子、『いえとまちななかで老い衰える—これからの高齢者居住そのシステムと器のかたち』、中央法規) (査読無)
- ⑭ 全 泓奎、「韓国における社会的な不利地域の現状と課題」、『月刊住宅着工統計』、6-10 頁、2009年 8月号 (査読無)
- ⑮ 水内 俊雄 他、「東京都 23 区無料低額宿泊所調査レポート」、共著、大阪市立大学都市研究プラザ、URP GCOE Report Series 4、web 版、2009年 4月 (査読無)
- ⑯ 水内 俊雄、「商都・工都・移民都 大阪」、『水都大阪2009記念シンポジウム「遊びをせんとや生まれけむ—水都大阪の再生』」、16-18 頁、2009年 9月 (査読無)
- ⑰ 鈴木 亘、「脱路上生活者の就労継続期間の分析」、季刊社会保障研究 45(2), 161-169, 2009年 (査読無)
- ⑱ 鈴木 亘、「どのような人々が無貯蓄、無資産世帯化しているのか?」、学習院大学経済論集 46(2), 203-228, 2009年 (査読無)
- ⑲ 福原 宏幸、「就職困難者の貧困と社会的排除」、部落解放研究 (187), 61-75, 2009年 (査読無)
- ⑳ 福原 宏幸、「派遣切りと雇用安全網」、部落解 e 放 (614), 136-139, 2009年 (査読無)
- ㉑ ④ 水内 俊雄、中山 徹、「ホームレス問題と自治体および民間・NPO セクターの課題」、市政研究 162 号、pp.104-128、2009年 (査読無)
- ㉒ 福原 宏幸、「福祉から就労へ」の政策転換と自治体」、市政研究 (162), 28-45, 2009年 (査読無)
- ㉓ 木下 武徳、「ロサンゼルス福祉改革における民間化の特質」、社会科学研究 59(5/6), 81-112, 2008年 (査読無)
- ㉔ 水内 俊雄編、「ホームレス自立支援から提

起する新しいセイフティネットの構築」、都市研究プラザ、URP GCOE Report Series, No.1, 185p, 2008 (査読無)

- ㉕ 水内 俊雄編、「ホームレス支援の最前線 2008年春 第1回「ホームレス支援全国ネットワーク」研修会」、都市研究プラザ、URP GCOE Report Series, No.2, 2008, 100p. (査読無)
- ㉖ 水内 俊雄、「貧困現象を空間的視点からとらえると見えるもの」、貧困研究、創刊号、pp.40-54, 2008年 (査読無)
- ㉗ 福原 宏幸、「稼働能力を持つ貧困者と就労支援政策」、経済学雑誌 109(2), 1-16, 2008年 (査読無)
- ㉘ 垣田 裕介、「現代福祉政策のなかの貧困と生活保護」大分大学 紀要 9, 73-85, 2008年 (査読無)
- ㉙ 水内 俊雄、「二つの全国調査を通じて見たホームレス脱野宿支援施策の地域差」、2008年3月、Shelter-less, No.34, pp.78-117 (査読無)
- ㊀ 水内 俊雄編。『もうひとつの全国ホームレス調査』。大阪、大阪就労福祉居住問題調査研究会, 2007年, 40頁。(査読無)
- ㊁ 水内 俊雄、「生活保護受給の激増と脱野宿生活者の地域居住の現状—釜ヶ崎から西成区全域をめぐる—」、2007年7月、高田 敏 他編『ホームレス研究—釜ヶ崎からの発信』信山社、68-88頁 (査読無)
- ㊂ 福原 宏幸、「日本のワーキング・プア問題」、部落解放 (582), 122-125, 2007年 (査読無)
- ㊃ 水内 俊雄、「もう一つの全国ホームレス調査—厚労省調査を補完する—」、2007年8月、Shelter-less, No.32, pp.83-122 (査読無)
- ㊄ 福原 宏幸、「現代日本社会とホームレス—10年の歩みを振り返って」、部落解放 (590), 12-19, 2007年 (査読無)
- ㊅ 水内 俊雄、「虹の連合によるもう一つの全国ホームレス調査—厚労省の調査の不十分さを克服して—」、2007年12月、部落解放 590号、pp.20-32 (査読無)
- ㊆ Geerhardt, Kornatowski, Toshio Mizuuchi, Reinventing Public Service Provision for the Socially-Excluded in the City: The Recent Transformation of Homelessness Support and Different Paths Toward Self-reliance for the Homeless in Japan., <Proceedings pp47-60>, May, 2007, International Forum: The Transforming Asian City: Innovative Urban and Planning Practices, Hong Kong, May 3-5,

2007 (査読無)

[学会発表](計9件)

- ① 水内 俊雄、「見える貧困から見えない貧困とセイフティネット」、2010年3月7日、大阪人権博物館シンポジウム
- ② Toshio Mizuuchi, Conquering the Failure of Urban Planning in the Socially Disadvantaged Areas in Japan; Coordination of Orthodox Skill of Technocrat with Flexible Art of NGO, International Conference on CULTURAL CITIES, Creativity and Social Inclusion in Osaka and Copenhagen, Univ. of Copenhagen, 10, February, 2010, Denmark
- ③ 全 泓奎, 水内 俊雄, 稲田 七海, 全 昌美, 南 垣碩, コルナトウスキ ヒェラルド, 本岡 拓哉、「「居住」と「サービス」との複合化によるホームレス支援の新たな方向の模索」、人文地理学会大会、2009年11月7日、名古屋大学
- ④ 水内 俊雄、「ますます拡散化するホームレス現象と社会保障の再構築」、貧困研究会大会、2009年10月18日、大阪市立大学
- ⑤ Toshio Mizuuchi, Historical Development of Urban Renewal for the Former Outcast Minority People and Areas in Japan, A joint workshop by K.U. Leuven (Belgium) and OCU URP (Japan), September 4th 2009, at K.U.Leuven, Belgium
- ⑥ Toshio Mizuuchi, Transformation of the Management of Urban Poverty in Japan: From Slum Clearance to Assistance for the Homeless, 14th International Conference of Historical Geographers, 26 August 2009, Kyoto, Japan
- ⑦ 水内 俊雄, 稲田 七海, 蓬萊 梨乃, 渥美 清, 「ホームレス/社会的包摂/「見える化」システム」、人文地理学会大会、2008年11月15日、筑波大学
- ⑧ 稲田 七海, 若松 司, 蓬萊 梨乃, 水内 俊雄, 「社会的条件不利地域における「見える化」システムの導入」、人文地理学会大会、2008年11月15日、筑波大学
- ⑨ 福原 宏幸、「EU包摂論の視点から見た日本の社会政策・反排除への取り組み」、貧困研究会大会、2008年10月18日、法政大学

[図書](計6件)

- ① 佐々木 雅幸, 水内 俊雄編、『創造都市と社会包摂：文化多様性・市民知・まちづく

り』、水曜社、2009年、314p.

- ② 鈴木 亘、『だまされないための年金・医療・介護入門』、東洋経済新報社、2009年280p.
- ③ 中山 徹、橋本 理編著、『南大阪における新しい仕事づくりと地域再生』、大阪公立大学共同出版会、2008年、128p
- ④ 水内 俊雄、加藤 政洋、大城 直樹、『モダン都市の系譜：地図から読み解く社会と空間』、ナカニシヤ出版、2008年、335p.
- ⑤ 福原 宏幸編訳、『社会的排除/包摂と社会政策』、法律文化社、2007年、269p.
- ⑥ 高田 敏、桑原 洋子、逢坂 隆子編、『ホームレス研究：釜ヶ崎からの発信』、信山社、2007年、225p

[その他]

ホームページ等

研究代表者：

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/mizuuchi/japanese/acomplish.htm>

都市研究プラザ刊行物：

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/arcs/hives/report.html>

関係調査チーム

<http://www.osaka-sfk.com/>

関係NPO：

<http://www.homeless-net.org/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

水内 俊雄(MIZUUCHI TOSHIO)
大阪市立大学・都市研究プラザ・教授
研究者番号:60181880

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

福原 宏幸(FUKUHARA HIROYUKI)
大阪市立大学・大学院経済研究科・教授
研究者番号:20202286

中山 徹(NAKAYAMA TORU)
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号:40237467

松村 嘉久(MATSUMURA YOSHIHISA)

阪南大学・国際観光学部・教授

研究者番号:80351675

阪東 美智子(BANDO MICHIKO)

国立保健医療科学院・建築衛生部・主任研究官
研究者番号:40344064

垣田 裕介(KAKITA YUSUKE)

大分大学・大学院福祉社会科学研究科・准教授
研究者番号:20381030

中嶋 陽子(NAKASHIMA YOKO)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特別研究員
研究者番号:80445048

内田 敬(UCHIDA TAKASHI)

大阪市立大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号:60203535

木下 武徳(KINOSHITA TAKENORI)

北星学園大学・社会福祉学部・講師
研究者番号:20382468

鈴木 亘(SUZUKI WATARU)

学習院大学・経済学部・教授
研究者番号:30324854

逢坂 隆子(OSAKA TAKAKO)

四天王寺国際仏教大学・人間社会学部・教授
研究者番号:50028544

岡崎 仁史(OKAZAKI HITOSHI)

広島国際大学・医療福祉学部・教授
研究者番号:20320062

藤田 博仁(HIROHITO FUJITA)

愛知県立大学・文学部・准教授
研究者番号:30326128

城戸 宏史(KIDO HIROSHI)

北九州市立大学・経済学部・准教授
研究者番号:40220016

全 泓奎(JEON HONG-GYU)

大阪市立大学・都市研究プラザ・准教授
研究者番号:00434613